

1 . 調 査 報 告 概 要 表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 1 9 年 7 月 1 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	2 7 7 2 4 0 1 0 1 0
法人名	社会福祉法人 聖徳園
事業所名	グループホーム敬愛
所在地	枚方市香里ヶ丘 8 丁目 1 番地 (電 話) 0 7 2 - 8 6 0 - 3 7 7 5
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺 1 丁目 1 番 5 4 号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 1 9 年 6 月 1 8 日

【情報提供票より】(平成 1 9 年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 8月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	7人
職員数	6人	常勤 5人, 非常勤 1人, 常勤換算	6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	4 0, 0 0 0 円	その他の経費 (月額)	1 9, 0 0 0 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円		
	夕食 円 おやつ 円		
	または 1 日当たり	1, 2 0 0 円	

(4) 利用者の概要 (平成 1 9 年 6 月 1 日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護 1	2 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 8 4 . 5 歳	最低	7 9 歳	最高	9 0 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香里ヶ丘有恵会病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に定着している社会福祉法人が介護保険制度開始とほぼ同時に設立した 1 ユニット 7 人の家庭的なホームです。平屋建てで全室が広々とした中庭に面しています。日中は鍵をかけずいつでも外に出ることができ、利用者の生活を優先しています。利用者も職員も明るく行動的で笑顔がさわやかです。うさぎを家族の一員として大切に育てたり、植物や草花の世話を楽しんだり、職員も利用者も互いに助け合いながら過ごしています。毎日のように外へ出かけ住みなれた地域の人々と出会ったり、ボランティアの協力を得て趣味や特技を活かした作品作りを楽しんだりしています。地域の要請で学童の登下校見守り隊に協力する、図書館を活用するなど地域との交流を大切にしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目：外部 4) 前回評価の改善課題は、生活空間作りとして居室の表札の文字を大きく見やすくするというものでした。その後すぐに改善に取り組み、今回調査時点では改善が終了しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部 4) 運営者、管理者は職員が自己評価の意義を理解するよう事前に研修を行っています。職員は評価の意義を理解した上で、全員参加で評価に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部 4, 5, 6) 近隣、地域との交流についての意見交換を行い、民生児童委員から小学生の下校時見守り隊への参加要請がありました。グループホーム利用者の参加については出席家族の反対も無く、管理者はできる範囲の協力を申し出ました。実際には、ホーム中庭から学童の登下校を見守るなど、できる範囲で安全見守り隊に協力しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部 7, 8) 毎月定期的にホーム通信を発行して利用者の外出状況や体重の変化など詳細な生活状況を報告すると同時に金銭管理報告書を送付しています。ホーム内にご意見箱を設置し、苦情相談担当者と苦情解決の流れを掲示しています。苦情は職員の喫煙に関するものが 1 件ありました。職員はホーム外に定められた喫煙場所で喫煙していますが、そのことを家族等へ周知していなかったための意見と分かり、十分な説明と配慮をすることで理解を得ました。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部 3) 昨年から「とんど焼き」など地域の行事に参加しています。学童の安全見守り隊に地域から参加を要請され、子どもが好きな利用者を中心に、学童の登下校時に挨拶をするなど、できる範囲の協力をしています。利用者は自分が住んでいた団地の人々と買い物などで出会い親交を深める、地域からボランティアに来てもらい習い事をする、定期的に図書館を活用するなど、人々とふれあい交流することを楽しんでいます。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事 業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人としての理念を基盤にしなが ら、グループホームの理念として独自の方針 を掲げています。「人としての尊厳・人格が尊 重され、社会的な関係を保ちながらその人ら しい生活を続けていただく」として地域社会 との関係を重視しています。18年度に引き 続き19年度も「近隣、地域との交流の機会 を増やし、グループホームへの理解を向上さ せる」という目標を掲げ、外出支援として実 践しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や方針は明文化してホーム内に掲示して います。職員は毎朝業務引継ぎ時に方針や目 標を唱和し共有しています。また、業務の中 で実践を重ね、地域との交流の機会を増やす など利用者に喜ばれる支援をしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	昨年からの地域の行事「とんど焼き」などに参加しています。学童の安全見守り隊に地域自治会から参加を呼びかけられ、ホーム利用者は要員としてではなく、子どもが好きな利用者を中心に、学童の登下校を見守るという形で参加をしています。利用者は自分が住んでいた団地の人々と買い物などで出会い親交を深める、地域からボランティアに来てもらい習い事をするなど、馴染みの人々との交流を楽しんでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は職員が評価の意義を理解するよう事前に研修を行っています。職員は評価の意義を理解した上で自己評価に取り組んでいます。また外部評価で受けた提案や助言は職員間で検討し是正しています。検討した内容は記録として保存しサービス向上に活かしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を定めています。運営推進会議は年6回開催し、詳細な記録を残しています。会議で出された意見については業務に反映してサービス向上に努めています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから市へ出向き、担当者と情報交換をするなど交流の機会を作るように心がけています。地域包括支援センター職員とは運営推進会議の場だけではなく日常的な連携が深まるように努めています。事故報告や外部評価結果の報告等についてはできるだけ早く市へ届けるようにしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等へ毎月定期的に「えがお通信」を送付して、利用者の外出状況や体重の変化など詳細な生活状況を報告すると同時に、金銭管理報告書を送付しています。面会時には介護計画書や介護提供内容の説明を行い、了承された場合は署名・押印をもらっています。個人金銭出納帳については家族の了承印はありますが、署名がありません。	○	個人金銭出納帳について、家族の確認を得る場合は署名・押印が求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られたらできるだけ要望を聞くようにしています。また、利用者の希望や願いを聞き取り、記録に残して職員間で共有しサービスに反映しています。ホーム内に「ご意見箱」を設置し、苦情相談担当者と苦情解決の流れを掲示しています。苦情はほとんどありませんが、出された場合は記録に残し解決するための取り組みをしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間、若干名の退職者と法人内異動がありました。いずれも個人の理由からの異動で止むを得ない状況ですが、法人ではこの影響を最小減にするため、熟練した職員や認知症の支援経験がある職員を充当して対応しています。その結果、利用者の不安や動揺はあったものの、比較的短期間で馴染むことができ現在は安定しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間に外部、内部研修を合わせて33回の研修を行なっています。内容も幅広く、初任者に対する研修は着任直後に行うなど、それぞれの段階に応じた研修を的確に行ない研修体制を整えています。研修記録は整理し共有しています。また、働きながら資格取得できるような支援をしています		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地域の同業者連絡会や研修会に参加し、積極的に情報交換をするなど相互に研鑽を行いながらサービスの質の向上に努めています。運営者は同業者との交流や連携の必要性を理解しています。また大阪府下対象のネットワーク「大阪認知症高齢者グループホーム協議会」に加入しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や入居時の面接などは必ず本人が同行されるように家族に依頼しています。見学は何度でも利用者が納得されるまで受け入れています。また、入居待機者にも見学をすすめ、入居前に慣れていただくような配慮をしています。また、利用者の自宅にも事前訪問を行い支援内容の充実に努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者はそれぞれが得意なことや仕事を持ち、ホーム内で役割を持って生き活きと活躍しています。職員は利用者から教えてもらうこともあり、双方で助け合う関係を大切にしています。ホームで飼っているうさぎの世話や草花の手入れなど、楽しみごとを共有しながら喜怒哀楽を共感できることを大切にしたい支援をしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度の介護計画見直し時に利用者・家族等の思いや希望を聴取しています。聞き取った利用者本人の希望や目標については、それぞれの了解を得て職員や利用者から見える場所に掲示し実現するように取り組んでいます。また、些細なことでも常に希望を確認し、本人の意向に沿った支援をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントが的確に行われており、利用者の求めていることや家族の願いを反映した介護計画書になっています。職員は「利用者に適した支援は何か」を把握するために、ケアカンファレンスではもちろん日常的に話し合い、情報を共有しています。介護計画とケア実施記録は連動しています。利用者、家族等への説明を行った上で家族等の署名・押印をもらっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っています。見直し時期以外にも必要時には速やかに見直しを行い、利用者の変化に応じた介護計画書を作成しています。見直しに際してはアセスメント表、モニタリング記録、カンファレンス記録を作成しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急に受診する場合や家族の都合が付かない場合の通院介助、外出を希望された場合の支援については日常業務に支障が無い範囲で付き添い支援をしています。地域のボランティア組織からの協力申し出を受け、習い事等の指導援助を依頼しています。訪問看護ステーションとの連携で、利用者の状態に必要な看護、指導を受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれのかかりつけ医師（医療機関）で引き続き医療が受けられるように、一人ひとりの希望を尊重した支援を行っています。受診方法や結果の報告、共有などについても希望に応じて対応しています。協力医療機関があり、夜間や急変時の対応についての体制整備をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合、退居に当たっての条件を情報提供書、契約書に明記し、入居時に説明して希望を確認しています。身辺自立が困難となった場合や長期入院が必要となった場合、家族等の希望で特養へ申し込みをしている利用者もおられます。状態が急変した場合にはその都度、利用者・家族等の意向を確認しながら希望に添った対応をしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを大切にした対応や言葉かけをしています。個人情報の取り扱いが定められ、文書にして職員に周知しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが自分のペースで、好きなことができるように配慮しています。ホームの大まかな日課はありますが、利用者の体調や気分に合わせて支援をしています。たとえば皆でテーブルに座り、和気あいあいとされています。取り組まれている内容は全員がそれぞれ「自分の得意なこと、取り組みたいこと」です。絵画、刺繍、貼り絵、切り絵、裁縫などをそれぞれが楽しそうに、自分のペースで進められています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回は利用者と献立を考え、食材の買い物から一緒にしながら食事作りの課程を楽しんでいます。職員は利用者と同じ食事を味わいながら、会話を楽しみ、さりげない支援をしています。利用者は食器を運んだり、テーブルを拭いたりなど片付けでも活躍されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、2日に1回の割合で入浴支援をしています。希望すれば毎日でも入浴できますが、今のところ希望者が無いので実績はありません。お風呂が嫌いな利用者もありますが、バラやハーブなどを使い、変わり湯として楽しむことで、無理なく入浴ができるような支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームで飼っているうさぎの世話、中庭の草花の手入れ、野菜作り、食事の準備や片付け、外出して自然と触れ合うこと、地域の子どもの交流、近所の図書館の活用、刺繍や絵画などの手作業など、利用者一人ひとりの好みや特技を活かした支援をしています。また、利用者の「自分のしたいこと」を聞き取り、皆で共有しながら実現できるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望の場所へ外出できるように、職員が利用者一人ひとりに、どこへ行きたいかなどの希望を聞きとり、個人目標として共有し実現しています。1回の外出時間は15分から3時間というような幅はありますが、ひと月ごとに外出先や時間の記録を行い「えがお通信」に載せて家族へ送付しています。月に28回外出できた利用者や体調が優れず2回だけの利用者もありますが、多くの方が20回程度外出されている記録を確認しました。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や中庭に面した自室のドア、門扉にも鍵はかけていません。入居者は自由に戸外へ出ることができますが、玄関を出るときは職員に外出希望を伝え同伴してもらう利用者がほとんどです。身体拘束はありません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策の手順書を作成しています。消防署の協力を得て年2回の消防、非難訓練を行っており、非常口の確認や誘導場所など利用者と共に取り組んでいます。また運営推進会議での報告や協力依頼など、近隣からの支援を求める働きかけをしています。非常用食料品と水の備蓄については特別な対応はありませんが冷蔵庫や収納庫の在庫があり、最低限の量は確保しています。非常・災害時のための食料品と水の備蓄について「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成しておくことが望まれます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の把握、記載をしています。またバランスの良い食事献立を作るために同法人所属の栄養士や看護師の援助を受けています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間兼食堂、台所はゆったりとして家庭的です。居間にはソファを置き、玄関や廊下の小さな空間にはイスを置き利用者がくつろげる居場所の確保をしています。共用空間には観葉植物や鉢植えの草花を置き、季節感のある絵画や貼り絵を飾り、うさぎの「あめちゃん」のハウスを置くなど生活空間そのものが癒しになるような設定にしています。浴室には窓があり外が見える、トイレや洗面台は車イスでも対応できる等、利用者にとって快適な環境にしています。不快な音やまぶしすぎる光はありません。中庭には季節の草花があふれ、うさぎが走り回り、トマトやイチゴ、サツマイモなどの作物を植えるなどの家庭菜園も楽しんでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は中庭に面して造られています。障子の引き戸を付け、絨毯を敷き、落ち着いた雰囲気になっています。利用者は机、イス、タンス、衣装ケース、テレビ、写真、時計などの馴染みの家具に囲まれ、清潔で明るい自室で穏やかに過ごされています。職員は利用者ができるだけ自宅から馴染みの品を持参されるように勧め、今までの生活習慣を生かした居室設定に努めています。		